

# 宝満山

Mt. Homansan  
829.0m

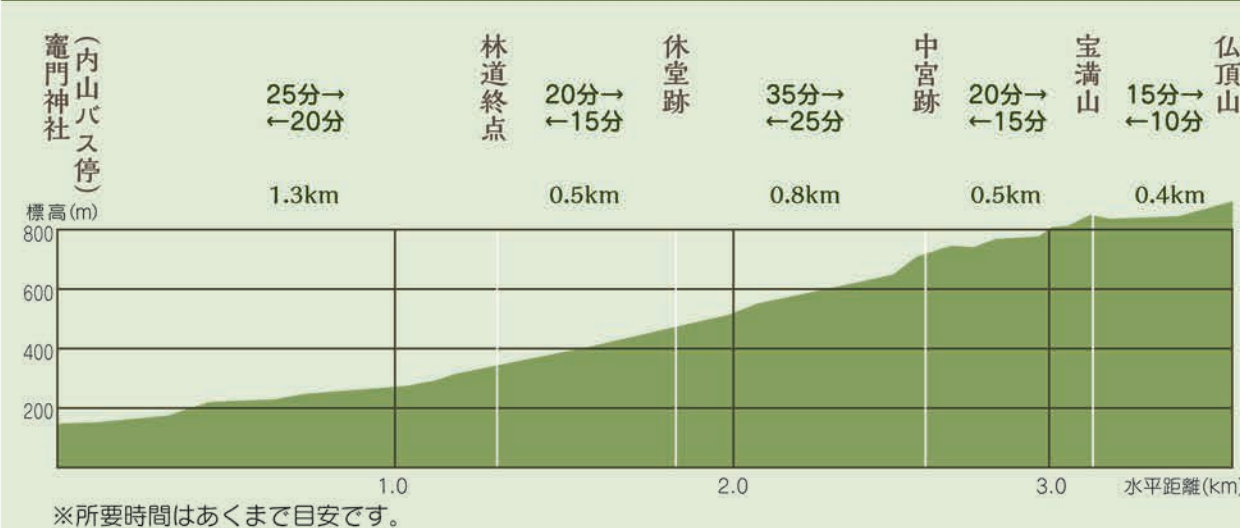


ブナ

宝満山～仏頂山付近のモミ林

宝満山の標高750m付近から上部の山頂付近には、県内でも貴重なブナが分布しています。この標高はこの地域でブナが分布する下限の標高であり、宝満山付近のブナ林は通常ブナ林の下部に分布するモミ林やアカガシ林と混在しているのが特徴です。山頂付近ではブナ、モミ、アカガシのほか、コハウチワカエデやタカノツメ、シキミ、シロモジ、ツルシキミ、ツクシヤクナゲなどの特徴的な植物や、多くの鳥類、蝶をはじめとした昆虫類を観察でき、四季折々の楽しさがあります。

宝満山の山腹はスダジイを主体としたシイ・カシ二次林、山麓はスギ・ヒノキの人工林やコナラやリョウブを主体とした雑木林が広がり、多様な自然観察ができます。また、仏頂山から三郡山にかけては、ブナ林のほかブナ林を伐採した後に生育するシデ林などの中を行く快適な九州自然歩道の縦走路となっています。



**1** 龍門神社後方の社叢はスダジイを主体とした素晴らしい照葉樹林が広がる。

**2** 池の周辺から林道終点にかけて、人工林の間に明るい雑木林が広がる。コナラ、リョウブ、ネジキのほか、アラカシやソヨゴなどが多い。足元には乾燥地に多いウラジロやコシダが見られる。



**3** 林道終点から本格的な登りが始まる。周辺はシイ・カシ二次林で特にスダジイが多い。



**4** 野鳥の好む実のなる木や昆虫類が豊富な宝満山には多くの野鳥が生息している。四季を通してウグイス、ホオジロ、エナガ、ヒヨドリ、コゲラ、カケス、カワガラスなどが見られ、夏にはホトトギス、オオルリ、サシバなど、冬にはシロハラ、ミヤマホオジロ、ツグミ、アオジなども見られる。

**5** スギの巨木が迎える百段ガンギ。足元にはシャガやツリフネソウが咲く。



**6** 中宮跡付近が下部の照葉樹林帯と上部の夏緑(落葉)樹林帯の境となっており、中宮跡より上部はブナ、モミ、アカガシが混在する。中宮跡より上部では、5月頃になると岩場などに生えるツクシヤクナゲやヤマツツジ、コバノミツバツツジなどの花が美しい。



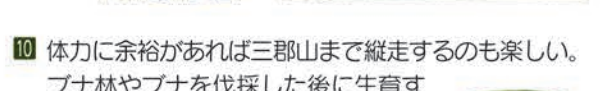
**7** 宝満山の上部はブナやアカガシが茂り、それらを食草とするフジミドリシジミ(ブナ)やキリシマミドリシジミ(アカガシ)といった美しいミドリシジミ類の蝶の姿も見ることができる。



**8** 岩上の宝満山山頂は眺めが良い。福岡市街や筑後平野のほか、空気の澄んだ日には九重連山や雲仙まで望める。



**9** 仏頂山山頂付近には素晴らしいモミ林が広がる。



**10** 体力に余裕があれば三郡山まで縦走するのも楽しい。ブナ林やブナを伐採した後に生育するシデ林などの中を行く。三郡山まで2.0km (50分)。







**ブナ** ◇ブナ科ブナ属  
◇落葉広葉樹 高木性

日本の温帯落葉樹林を代表する樹木です。宝満山では標高750m以上に見られ、県内では他に英彦山などにだけ分布しています。数年に一度のなり年には足元に多数のブナの実が落ちてきます。



**モミ** ◇マツ科モミ属  
◇常緑針葉樹 高木性

クリスマスツリーでなじみの樹ですが、県内で群生するのは宝満山と英彦山だけの貴重な針葉樹天然林です。枝は対生し、葉の先が2つに分かれます。落葉期の仏頂山付近では常緑のモミが目立ちます。



**タカノツメ** ◇ウコギ科タカノツメ属  
◇落葉広葉樹 小高木性

和名は冬芽が鷹の爪に似ていることに由来します。葉が3つに分かれる3出複葉で、5つに分かれるコシアブラによく似ています。宝満山ではブナ林内でよく見られ、秋には薄い黄色に黄葉します。



**ツルシキミ** ◇ミカン科ミヤマシキミ属  
◇常緑広葉樹 低木

山頂付近のブナ、モミ、アカガシ林の林床に群生します。茎の下部は地面を這い、高さは1m程度にしかありません。春には多数の小さい白い花を咲かせ、秋から冬にかけては赤い実が目立ちます。



**フジミドリシジミ** ◇チョウ目シジミチョウ科  
◇昆虫類 前翅長約14~19mm

幼虫はブナを食草とし、ブナ林に生息します。雄の羽は美しい金属光沢のある青色です。宝満山ではアカガシを食草とするキリシマミドリシジミなども見られ、初夏の夏緑樹林を彩ります。

メモ欄(観察日時などを記録しましょう)

観察した生き物は写真右上の口にチェックを入れよう。



**アカガシ** ◇ブナ科コナラ属  
◇常緑広葉樹 高木性

暖帯上部に分布し、宝満山ではシイ林の上部でブナやモミと混生しています。ドングリの仲間、和名の由来である赤い材は国産材の中でも硬く、様々な器具材などに用いられます。



**ウラジロノキ** ◇バラ科アズキナシ属  
◇落葉広葉樹 高木性

和名は葉の裏が綿毛に覆われ白く見えることに由来し、落葉しても白いままで目立ちます。秋に実る赤い実は甘酸っぱく野鳥が好みます。山頂付近のブナ林だけでなく山腹の雑木林でも見られます。



**マンサク** ◇マンサク科マンサク属  
◇落葉広葉樹 小高木性

宝満山山頂付近の落葉樹林内で、早春に他の植物に先駆けて黄色く細長い花弁の花を咲かせます。和名は早春に「まず咲く」から、花が豊かに咲いて豊年満作になるから、という説などがあります。



**オオルリ** ◇スズメ目ヒタキ科  
◇鳥類 夏鳥 全長約16cm

雄は頭から尾まで美しいりり色ですが、雌は地味な茶色で目立ちません。美声で知られており、日本の三鳴鳥とされています。夏に日本で繁殖する夏鳥で、冬季は東南アジアで越冬します。

九州自然歩道とは・・・

九州自然歩道は、愛称“やまびこさん”で親しまれており、九州を一周する総延長約2,900kmの長距離自然歩道です。自らの足で歩くことを通じて、四季折々の豊かな自然や歴史・文化とふれあい、心身ともにリフレッシュし、自然保護に対する理解を深めることを目的として整備されています。

福岡県内コースは、北九州市の皿倉山から平尾台を通り、南下して英彦山に至ります。英彦山からコースは東西に分かれ、東はツクシヤクナゲの群生地である犬ヶ岳などを通り、大平山を経て大分県へ続いています。西はツゲの原生林がある古処山、1,300年の悠久の歴史を秘めた太宰府などを通り、基山を経て佐賀県へ通じる総延長261kmの道です。

福岡県内コースマップ  
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/kyushuzenbudo-map.html>

みんなで守ろう  
生物多様性

自然を愛する気持ち、守ろうとする気持ちは、身近な自然を知ること、ふれ合うことから始まります。希少な自然だけが守るべき自然ではありません。身近な自然も生物多様性の一部なのです。地図を片手に身近な自然にふれてみて下さい。

福岡県 環境部 自然環境課  
TEL :092-643-3369 FAX:092-643-3357

平成27年3月発行



**コハウチワカエデ** ◇カエデ科カエデ属  
◇落葉広葉樹 高木性

ブナ林でブナなどと混生するカエデの仲間、尾根筋に多く分布します。植栽され街中でもよく目にするイロハモミジよりも葉が丸く、うちわの形をしています。秋にはブナ林を赤く彩ります。



**シロモジ** ◇クスノキ科クロモジ属  
◇落葉広葉樹 低木性

ブナ林の低木として、山頂一帯に普通に見られます。葉が3つに分かれ、和名は分布が似るクロモジに比べ樹皮が白いことに由来します。早春、葉が展開する前に黄色い小さな花を咲かせます。



**ツクシショウジョウバカマ** ◇ユリ科ショウジョウバカマ属  
◇多年草

山地のやや湿った林床を好み、春先の宝満山山頂付近や三郡山への縦走路で出会えます。和名はこの花を空想上の生き物(狸々(ショウジョウ))の顔に見立てたという説など諸説あります。



**シロハラ** ◇スズメ目ヒタキ科  
◇鳥類 冬鳥 全長約25cm

日本で越冬する渡り鳥(冬鳥)です。ヒヨドリよりやや小さく全体的に灰褐色ですが、和名のとおりに腹部が白いのが特徴です。単独で森の茂みに潜み、雑食で地上をとび跳ねながら餌を探します。



**ウリハダカエデ** ◇カエデ科カエデ属  
◇落葉広葉樹 高木性

和名は樹皮の模様がウリに似ることに由来します。他のカエデ類に比べて葉が大きく、切れ込みが浅いのが特徴です。コハウチワカエデ同様ブナ林などによく見られ、紅葉は黄色から赤色と幅があります。



**シキミ** ◇シキミ科シキミ属  
◇常緑広葉樹 小高木性

枝葉に香りがあり、線香の原料や仏前に供えるなど仏事に関係の深い木です。宝満山のモミ林やアカガシ林の低木として普通に見られます。春に黄白色の花を咲かせ、星形をした実には毒があります。



**エゾゼミ** ◇カメムシ目ゼミ科  
◇昆虫類 全長約60mm

寒地性のゼミで、九州では1,000m近い高い山地にのみ生息します。木の高い所にいることが多く姿はなかなか見られませんが、低地では聞きなれない「ギー」と震えるような低い鳴き声の特徴です。



**テン(ホンドテン)** ◇ネコ目イタチ科  
◇哺乳類 頭胴長40~50cm

低山から亜高山にかけて広く生息しているイタチの仲間、木登りが得意です。夜行性で昼間は岩穴や樹洞で休みます。昆虫などのほか、小型の哺乳類や鳥類、木の実なども食べる雑食性です。